

## 学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 長良特別支援学校運営協議会 (第1回)
- 2 開催日時 令和4年7月1日(金) 13:00～15:00
- 3 開催場所 長良特別支援学校図書室及び学習室
- 4 参加者

|       |        |                        |
|-------|--------|------------------------|
| 会 長   | 竹村 真紀  | 長良医療センター主任児童指導員        |
| 委 員   | 山本 るり子 | 長良緑町自治会代表 (ご欠席)        |
|       | 島崎 喜代美 | 長良東公民館主事 (ご欠席)         |
|       | 土屋 雅哉  | PTA会長                  |
|       | 臼井 裕子  | PTA副会長                 |
|       | 安藤 由美子 | 長良園芸                   |
|       | 佐藤 美佐恵 | Man to Man Passo岐阜校管理者 |
|       | 菊池 俊哉  | 光陽福祉会会長                |
|       | 下平 悦子  | 長良医療センター医療社会専門員        |
| 学 校 側 | 広井 隆司  | 校長                     |
|       | 井上 真典  | 教頭                     |
|       | 伊藤 友弘  | 事務長                    |
|       | 佐野 幸弘  | 小学部主事                  |
|       | 不破 明美  | 中学部主事                  |
|       | 河田 恭子  | 高等部主事                  |
|       | 松原 智和  | 教務主任                   |
- 5 会議の概要(協議事項)
  - (1) 学校運営方針について
    - ・校訓、教育目標、学校スローガン、教育方針、令和4年度の重点について
    - ・令和4年度版長良特別支援学校の働き方改革と共生社会・共創社会の実現に向けた教育実践の在り方について
  - ①本校開校からの歩みと児童生徒数推移について
  - ②学校運営について(ICTの充実、センター機能の拡充、防災体制の整備)
  - ③学びの在り方について(試行錯誤、ICTの活用、多様な交流)
  - ④働き方改革(3つの「い」…意識改革、生き方改革、命につながる改革)
  - ⑤校舎改築への構想及び教育実践の充実について
    - ・コロナ感染症対応について
  - ①対応の概要版について
  - ②長良医療センター入所生の通学見通しについて

意見1:働き方改革の3つの「い」は学校だけでなく社会全体でも意識し続けたいことである。

こうした取り組みにより、教師も児童生徒も家庭もみんな生きやすい環境になることを願っている。働きやすい、生きやすい環境ということに関しては、自分を癒すことが大切である。職業柄、植物を取り扱っており、地域の老人や障害がある児童などと一緒に花を飾ったり花壇を作ったりという活動を行っている。本校の児童生徒にもこうした活動を提供することができる。

意見 2 : これからの時代の教育実践も大事だが、現在行っている教育が今の時代と合っているかという評価も大事である。高等部卒業後に社会に出てから、生徒も保護者もカルチャーショックを受けることが多い。高等部卒業後に必要なのは生きる力である。学校教育で行っていることが現在の社会の状況とマッチングできているのかということをしつかりとみながら、各年代で生きる力を身に付けるためにどういう実践を行ったらよいのかということを検討いただきたい。  
⇒小学部から高等部至るまで、それぞれの年代でどのような力をつけていくとよいのか、今後検討していきたい。

意見 3 : 長良医療センターの入所生について、高等部を卒業した後は生徒自身で考える力が必要になる。また、保護者からも卒業後の不安について話を伺うことがある。在学中に、生きる力やその子らしく成長していく力を身に付けられるとよい。

意見 4 : 高等部の保護者であるが、コロナ感染症の影響で生活介護事業所との話し合いがうまくできていないので、学校がうまく間に入ってもらえると安心である。また、学校でも感染症対策のため登下校時には挨拶程度になりがちで引継ぎが十分にできない。そのため、学校のことも進路のことも自分で考えることになり、将来のことが不安になる。高等部に入った時点から進路を含めた将来のことを学校と児童・生徒、保護者とが密に考えていけるとよい。

意見 5 : 小学部の保護者であるが、学校教育や指導のおかげで成長したと思っている。現時点ではこれでいいと安心していたが、他の委員の意見を聞くと社会に出たらいろいろと問題が出てくることが分かった。児童・生徒の段階や障がいの程度によって一律にはいけないと思うが、今後は社会に出たところの必要な知識について学校として考えていただきたい。一方、働き方改革については、本校は病弱教育であり、普通の学校とは違ってやらなければならないことが多い。その中で、働き方改革が先に来ることで本来やるべきことがやられていないということにはならないでほしい。

意見 6 : 教員のこれまでの経験からくる固定概念が、児童・生徒たちの進路選択の幅を狭くすることにつながる。また、学校の常識は一般社会の常識とは違うので、社会の教育や教師に対する評価を意識したほうがよい。生き方改革として、教員が異業種の方々と交流し視野を広げることを望む。

意見 7 : 就労支援を行っている会社で勤務しているが、ICTでオンラインを活用することで在宅でも訓練を受けたり働けたりするなどできることが増えており、会社に行かなくてもできる働き方なども提案できるようになっている。働くことをあきらめたりやる気がなかったりする方でも、その方に応じた働き方を考えていくことができればと思っている。

## (2) 各部の現状と課題について

・小学部の現状と課題について

- ①在籍児童の半数以上が訪問生で、児童同士の交流や職員の情報共有が課題
- ②児童同士の交流については、オンラインの活用や掲示物での交流を実施
- ③職員の情報共有については、部主事が橋渡しをすることや部会での児童情報交流を実施

・中学部の現状と課題について

- ①通常学級生徒の同世代生徒とのかかわりと、生徒の体調変化に伴う支援の在り方が課題
- ②通常学級生徒の同世代生徒とのかかわりについては、県内特別支援学校との直接交流や、県外特別支援学校のマッチングサイトを利用したオンライン交流等を実施
- ③生徒の体調の変化に伴う支援については、病気や障がいの理解に加え成長に伴う体や心の変化について職員で情報共有を行い、保護者や医療機関とも連携しながら支援を実施

・高等部の現状と課題について

- ①一人一人に応じた進路情報の提供と、福祉サービス等の新しい情報を得て進路支援に生かすことが課題
- ②課題に対しては、保護者からの丁寧な聞き取り、関係機関と連携や情報交換、進路情報のアップデート、進学希望や進路選択に見合った情報提供等を実施

意見1：長良医療センター入所生の登校再開に向けて準備を進めているが、入所生が登校し、生徒同士の交流ができるとよいと思っている。互いに連携・協力しながら進めていきたい。

意見2：高等部の課題としては、福祉施設の情報を得るよりも福祉制度について学んだほうがよい。この学習がないために、偏った福祉事業所の選択をして、よくない結果が起きることがある。小学部の課題としては、この時期に保護者と良好な関係を作ることが、学校と保護者との対立やクレーマー的な存在を作らないことなどにつながる。課題としてぜひ加えてほしい。

## 6 会議のまとめ

- ・第1回学校運営協議会では、学校運営方針や現在の取組状況について肯定的な意見や今後の改善に向けての建設的な意見を多くいただき、参加全委員より今年度の本校の学校運営基本方針について承認が得られた。
- ・今回意見として出された、各部段階での生きる力の整理、進路に向けた福祉制度の理解や福祉事業所との連携の在り方等について学校運営の視点に加え、具体的な取組について検討し、実施につなげていく。また、今後の運営協議会の中で、取組の経過等についても報告を行う予定である。